

2014 MTB 世界選手権大会（ノルウェー/ハーフェル）レースレポート

+++++

大会名：2014 マウンテンバイク世界選手権大会 in NORWAY / HAFEL

期日：平成 26 年 9 月 4 日（土）

会場：ノルウェー / ハーフェル XCO コース

天気/気温：晴 / 19℃

競技種目：男子エリート 4.8km×7Lap

出場者数：108 名

レース結果：75 位（-3Lap）

Web：<http://mtbworldchamps.com/>

+++++

世界の頂点を決める戦い。2014 マウンテンバイク世界選手権大会がノルウェー・ハーフェルにて開催された。今回、日本代表選手（ナショナルチーム）の一員として 8 月 30 日～9 月 9 日までの間、世界選手権大会に参戦するチャンスを得た。マウンテンバイクでの日本代表選手に選抜されるのは今回で 2 度目。自分なりの確かな手応えと不安を抱きつつも、レースに向けた緊張感が心地良くさえ感じてしまう程に充実した日々を過ごせた。ここまでのシーズンを振り返ると 7 月中旬の全日本選手権前までは理想に近い走りと体調をキープしてきたが、全日本選手権後は疲労からイマイチ体調が優れず、走りにも自分らしさを感じられない日々と時間が続いた……。自分らしさを見失い、辛く苦しい期間を過ごしてきたが、世界戦の代表に選抜されたことでもう 1 度気持ちを入れ替えトレーニングに励んだ。初心に戻り、当たり前のことを当たり前になそうと決めた。気持ちをリセットしたことで日々のトレーニングさえ楽しく思え、心身ともに充実した時間を過ごすことが出来た。8 月 31 日に日本を出発し、レース会場のあるノルウェー・ハーフェルへと向かう。ノルウェーの気候は日本と比べると格段に涼しく、気温は朝晩で 10℃前後、日中は 20℃近くまで気温が上がる。気になる天気も晴天が続き、コースはオールドライでパフパフしたコンディションで路面が滑りやすい。登り下りともにシングルトラックとダブルトラックがバランス良く組み合わせられている。路面がボコボコに荒れているので走るラインが限られているため抜きどころが非常に少ないのが特徴。下りのロックセクションはかなりテクニカルで日本では経験したことのないようなセクションが無数に点在する。レースまでの間、毎日試走を繰り返し、良いイメージを頭に叩き込む。しかし頭で分かっているイメージと体が上手くリンク出来ずスキル不足を痛感してしまう……。9 月 4 日（土）レース当日。日本でのレースと同じアプローチとルーティンで食事を済ませ、レース 1 時間前にアップを開始する。約 40 分のアップを終え、スタート地点で召集待ち。男子エリートは定刻通り 13 時 30 分スタート。1 周 4.8km を 7 周回で行われる。UCI ポイント順にスタートコールされていき、自分は 93 番コールでスタート位置へ。UCI ポイントが少ない自分は最後尾から 3 列目のスタートとなってしまう。号砲 1 発、スタートから物凄い勢いのペースでレースが始まる。砂煙で前が見えない・・・落

車には最善の注意を払い、冷静にそして少しでも前へとプッシュしていく。このスタートのスピードとポジション取りは日本ではまず経験出来ないこと。予想通りコーナーや折り返し、シングルトラック入口では後続集団は大渋滞となり、登りも下りもバイクを押してラン&ラン。乗車できる区間になっても前の選手と接触したり、スペースに無理やり入られたりと選手をパスできずに苦戦。下りの苦手な選手でもラインを譲ってくれることはあり得ない。だからこそ前の選手を抜くために必要な一瞬のパワーと瞬発力がなければいつになっても前に出ることが不可能になってしまう。他国の選手がフィードゾーンで給水をしている間に全力でもがいてなんと順位を上げて行く。1周目のループを終えてトップと約4分秒差。まだ後続集団ではSTOP&GOを繰り返してペースが落ち着かない。1周目から思いの外トップからタイム差が付いてしまった。2周目はある程度乗車が出来ようになるものの、ペースは落ち着かない。自分がトレースしたいラインを上手く走ることが出来ない。ハイペースで追い込んでいるため、ミスも目立つ。6分弱の後れで2周目のループを終了し3周目へ。自分のリズムを掴みたい故に、少しペースを落としたい・・・しかし一瞬でも気を抜いたらどんどん抜かれ離されてしまう。試走で出来たことがレースで出来ない。集団での走行に慣れていないためか、一気にペースも上げることが出来ず我慢が続く。1人、また1人と脱落し始め、徐々に集団が小さくなっていく。3周目からは呼吸が整い始め、得意の登りでペースを上げることが出来た。冷静かつリラックスも出来ている。しかしフィードゾーンにいるチームスタッフからは先頭のペースは速いので80%ルールでLapアウトされないようペースアップの指示。想定はしていたが、前半でのタイムロスが響きサバイバルレースになる。1周でも多く、少しでも前へ。この気持ちだけは忘れず追い込み続ける。しかし5周目に入る手前でラップアウトされてしまい今レースを終えた。後方スタートからひたすら追い込み続けたが、何が何だか分からないまま、あっという間にレースが終わってしまった。自分のレースをさせてもらえなかった・・・これが世界戦。やはり世界で戦い、上位に食い込むには、まだまだやらなければいけないことがたくさんある。そして時間と計画的なプランが必要。この差を少しでも縮めるにはどうしたらいいのか？選手だけでなく日本チームとしての方向性を定めていく必要があるのではないか。悔しさと虚しさ・・・自分の力のなさを改めて痛感した。今の純粋な気持ち。このレースで感じたこと、現場で見たこと聞いたこと。今遠征の経験をしっかりと活かし、次のステップへと繋げていく。世界一を争う年に1度の世界選手権大会。本当に毎日が刺激的で充実した勉強の日々だった。またここから新たな戦いが始まり、今までとは違った自覚というのとも出てくると思う。焦らず冷静に、色々な状況下を見ながらやっていけたらと思う。苦しいことの先に、新しい何かが見つかるかと信じてリスタートを。

日本で、現地で、たくさんの方々に応援・サポートして頂き心から感謝しています。皆さまの多大なる応援本当にありがとうございました。

BRIDGESTONE ANCHOR CYCLING TEAM 齊藤 亮

【使用機材】

バイク：ANCHOR / XR9

コンポーネンツ：SHIMANO / XTR FC-M985

ホイール：PAX RACING / TUBULAR

シューズ：SHIMANO / SH-XC90

ペダル：SHIMANO / PD-M980

ハンドル：SHIMANO PRO / XCR

ステム：SHIMANO PRO / XCR

シートポスト：SHIMANO PRO / XCR

フロントフォーク：SR SUNTOUR / AXON-WERX-RC-RL-RC AH CTS 27.5/100MM

タイヤ：

サドル：fi'zi:k / TUNDRA

ヘルメット：

サングラス：adidas eye wear / evil eye halfrim pro / グレイメタリック

ケミカル：HOLMENKOL

時計：SUUNTO / AMBIT2S

メーター：パワータップ G3 プロ MTB ハブ / ジュール GPS

ネックレス：SEV

ドリンク：SAVAS (株式会社明治)

サプリメント：SAVAS (株式会社明治)

レースグローブ：KABUTO / PRG-3

アンダーウェア：CRAFT

インソール：SUPER feet / Black

アパレルウェア：Columbia

ザック：deuter

テーピング：New-HALE